

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成19年7月1日

### 【評価実施概要】

事業所番号	2870902091		
法人名	医療法人社団 董会		
事業所名	甲陽園すみれホーム		
所在地	西宮市神原15番65号 (電話) 0798-73-8881		
評価機関名	株式会社H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号		
訪問調査日	平成19年6月13日	評価確定日	平成19年8月13日

【情報提供票より】 平成19年5月15日記入

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤13 人, 非常勤4 人, 常勤換算15.6	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての 2 ~ 3 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	78,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有 ( 円) ⑧		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (500,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	⑨ / 無
食材料費	朝食	315 円	昼食 588 円
	夕食	円	おやつ 84 円
	または1日当たり 0 円		

### (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者人数	18 名	男性 2 名	女性 16 名
要介護1	7	要介護2	4
要介護3	3	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	1
年齢	平均 83 歳	最低 73 歳	最高 94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上ヶ原病院
---------	-------

### 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

環境に恵まれた住宅地にあるホームは、明るく家庭的な雰囲気の中で地域や家庭との関わりを大切にしながら安心して日常生活を送る事できる環境にある。日々の暮らしの中で、一人ひとりの状況を見極めそれぞれが役割を持ち、共に過ごす時間を大切にしている。定期的な内科医・精神科医・歯科医の往診、本人や家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診等の支援が行われ、家族が同行できない場合は職員が同行している。グループホーム職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけるよう基本的マナー(守秘義務)は必ず守るよう徹底されている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	前年度の第三者評価、家族様アンケートの結果を会議で検討し可能なところから改善に向け取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	スタッフ全員で評価に取り組むことをサービスを見直す機会として捉え組織的に取り組む姿勢がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	市職員、民生委員、家族会代表、他グループホーム職員等が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回実施し、グループホームの説明・活動等を報告し参加メンバーからの意見を受けサービスに反映させるよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7, 8)
	重要事項説明書に苦情窓口を明記し、入居時に説明している。また、意見や苦情が気軽に伝えられるよう、フロア担当者が言い出し易いような雰囲気作りを心がけている。迅速に対応できるよう手順書を作成し運営に反映させるよう組織的に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
重点項目④	入居者に地域の方が多く、地域で暮らしていた時の繋がりのある方の来所が頻繁にある。ボランティアの受け入れ・花見や盆踊りなど地域行事への参加等、地域の方々との交流に努めている。

## 2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	重要事項説明書の運営方針の中に、地域や家庭との結びつきを重視した内容が明文化されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各フロアー、事務所に掲示し利用者に関わる場面場面に理念を意識した取り組みを行っている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者に地域の方が多く、地域で暮らしていた時の繋がりのある方の来所が頻繁にある。ボランティアの受け入れ・花見や盆踊りなど、地域の行事へ参加し交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を、「サービスを見直す機会」として捉え、自己評価に職員全員で取り組んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市職員・民生委員・家族会代表・他GHケアマネジャー等に積極的に参加を呼びかけ実施している。	○	運営推進会議がGHの報告や情報交換にとどまらず、評価の取り組みや評価後の改善への取り組みを公表することで評価の効果を高める努力に期待したい。
6	9	○市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	問題解決に向けてその都度、市担当者と連絡を取り関係作りを積極的に行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にホームでの様子を伝えている。また、ケア方針については、定期的に（半年に1回）個別の説明を行い、計画に反映させるよう見直しを3ヶ月に1度実施している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情窓口を明記し、入居時に説明している。また、意見や苦情が気軽に伝えられるよう、フロア担当者が雰囲気作りに心がけている。敏速に対応できるよう手順書を作成し運営に反映させるよう組織的に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は原則していない。新しい職員については、3ヶ月間は利用者全体の状況を把握する為、また、馴染みの関係を築くため、各フロアを担当するようにしている。組織的には、夜勤のみの職員の雇用などを行い職員のやむ得ない離職による入居者への影響を最小限にする努力をしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム職員対象の外部研修会へ定期的に参加している。参加後は施設内研修として報告会を実施しているが研修が少ないのが実情。各職員に応じた段階的・計画的な研修計画作成までには至っていない。	○	各職員に応じた段階的・研修計画を年間計画の中で位置づけしていくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会に積極的に参加。情報交換の場とし交流を深めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して入居できるよう、家族と共に見学していただくようにしている。入院先からの入居の場合は、ご家族に見学して頂き、ホーム職員が入院先に面接に出向き、説明をするようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備・調理・洗濯物たたみ・おしぼりたたみ等、それぞれが役割を持ち、共に過ごす時間を大切にしたり関わりを実施している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時・日々入居者と接していく場面で、利用者の生活歴をアセスメントシートを活用して把握に努めている。また、利用者・家族の要望・意向を把握し、一人ひとりの生活のペースに合った過ごし方・希望に沿えるよう支援している。		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が入所までに地域の中で関わっていた方々とカンファレンスを実施し、居室の担当者が入居者や家族希望を踏まえて計画作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	身体的・精神的変化があった時は、随時見直しを行っている。定期的には3ヶ月に1回、ホーム会議の中で評価を行い本人や家族の意見や希望を反映させながら見直しを実施している。	○	認知症高齢者の心身の状態・家族の要望の変化に対応できるよう、毎月の見直しが望ましい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	薬の管理に薬剤師が定期的来所している。通院が必要な場合は職員が付き添い受診の支援を行っている。医療処置を受けながらの生活の継続ができるよう努力している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な内科医・精神科医・歯科医の往診がある。本人や家族の希望に応じかかりつけ医の受診の支援が行われている。家族が同行できない場合は、職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度者や終末期の方は対象としていないが、すでに入居されている方が重度化した場合は家族と話し合い家族の同意を得た上で入院が必要な場合は、入院施設への転院などの支援を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけるよう基本的マナー（守秘義務）は必ず守るよう徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日課にこだわらず、買物希望があった場合等は、他のフロアと協働しながら柔軟に対応している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人本部にてメニューは決まっているが、入居者の嗜好を入居者と職員で話し合いメニューの中に取り入れるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴となっている。ゆったりと入浴ができるように可能な限り希望の時間に入れるよう対応している。入浴を嫌がる入居者の方には、時間をかけて安心して入れるようにその方の習慣や好みを把握し対応するよう心がけている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴を把握した上で、食事作りや片付け等の役割を分担して行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的及び入居者の希望により職員による見守りの中外出や買物に出かけ、計画的な外出も実施している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム周辺は玄関を出てすぐに道路があり交通量が多い立地条件のため、安全を重視して鍵をかけて危険防止に努めている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回消防訓練を実施している。訓練以外には救急時対応についての訓練を行っている。地域の協力体制については、民生委員への協力を働きかけている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養摂取総量や水分量は毎日チェックして把握している。個別の食の支援については、食べやすいように小さく切ったり、食べられない物は別のものに変更したりと食がすすむよう工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にソファを置き居心地良く過ごせるよう配置している。また、畳部屋には季節の花々や入居者が作成した作品を飾り五感刺激への配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は使い慣れたタンスやベッド、仏壇などを思い思いに配置し、その人らしい清潔な居室となっている。		

※  は、重点項目。